

令和2年7月豪雨からの復旧・復興プラン

※復旧・復興プランについては、復旧・復興の進捗状況やその時々地域の実情を踏まえ、適宜、プランの取組みの見直しを行います

1 被災状況・豪雨災害の検証

- ・線状降水帯の長期停滞により
7月3日～4日で約1月分(7月平均)の降水量
- ・昭和40年洪水や昭和57年洪水を上回る、
観測開始以来最大の雨量・水位を記録

広範囲に降った大量の雨が球磨川や佐敷川などに流れ込み、大氾濫を引き起こすとともに、大雨により各地で土砂崩れも発生



① 主な被害状況

- 【人的被害】
死者数 65名 行方不明者数 2名
- 【住家被害】
全壊 1,490棟 半壊 3,098棟
床上浸水 294棟 床下浸水 427棟
孤立集落 166集落
- 【交通インフラ】
道路 729路線(1,467箇所)
橋梁流失 16箇所

【被害総額(令和3年3月30日時点)】

5,222 億円

建築物	1,554億円
公共土木施設	1,513億円
農林水産関係	1,019億円 など

昭和以降に発生した災害のうち、
熊本地震に次ぐ被害額

② 豪雨災害の検証

令和2年7月球磨川豪雨検証委員会による検証
構成:九州地方整備局、熊本県、流域12市町村
第1回(R2.8.25)、第2回(R2.10.6)

主要地点の水位・流量、「ダムによらない治水を検討する場」や「球磨川治水対策協議会」での治水対策(ソフト対策含む)の効果、川辺川ダムが存在した場合の効果、初動対応の状況等について検証

2 復旧・復興の基本理念・目指す姿

被災者・被災地の現状と課題

- ✓ 超高齢化、人口減少が加速する地域の、未曾有の災害からの早急な復旧と次なる災害への備え
- ✓ 消滅の危機にある地域における、人口流出の防止や地域経済・産業の再生
- ✓ 未来永劫、球磨川の清流と共に生き、暮らしていきたいとの思い

基本的な考え方(復興の哲学)

- 【復旧・復興の3原則】
原則① 被災された方々の痛みを最小化すること
原則② 単に元に戻すだけでなく、創造的な復興を目指すこと
原則③ 復旧・復興を熊本の更なる発展につなげること

【くまもと復旧・復興有識者会議からの提言(概要)(R2.10.26)】

総論(まえがき)

球磨川流域の治水と振興について、全国的モデルを創出する程の覚悟を持ち、流域総合振興としての熊本独自の「グリーンニューディール」を提案

提言1 令和2年7月豪雨からの創造的復興の方向性

- ・福祉、医療、教育、交通、産業等の各分野を防災と結び付けた復興
- ・集落や住居をオンラインで結ぶ、スマートシティ化により、新しい時代のコミュニティ形成

提言2 球磨川流域の今後の治水対策の方向性

- ・科学的な根拠を住民に示しながら議論を進め、民意を形成していくことが重要
- ・ダムだけでなく、すべての減災手法から持続可能なベストミックスを求める「流域治水」が重要

提言3 将来に亘る安全・安心の確保に向けた創造的復興

- ・教育環境を守る観点からの交通インフラの強靱化やリダンダンシーの確保
- ・災害に対する予防力を高め、災害発生時の回復力を大きくする「縮災(Disaster Resilience)」という考え方を踏まえた防災対策が必要
- ・ローカル5G等のテクノロジーを推進し、先進的かつ強靱な通信コミュニティを構築

提言4 球磨川流域の恵みを生かした創造的復興

- ・球磨川流域の森林資源を生かした、「緑の産業・雇用の創出」
- ・人吉の米焼酎を全国のセンターブランドとしての展開や、グルメと食文化拠点を形成し、球磨川下りなどの観光と連携
- ・リモートオフィスの設置やベンチャー企業の誘致による、新たな仕事の創出
- ・新たな知の拠点となる「球磨川流域大学(仮称)」構想の推進

基本理念(グリーンニューディール)

◎ 生命・財産を守り安全・安心を確保する

◎ 球磨川流域の豊かな恵みを享受する

目指す姿

愛する地域で誰もが安全・安心に住み続けられ、
若者が“残り・集う”持続可能な地域の実現

～ 抜本的な治水対策とあらゆるインフラの強靱化を基盤とした、
最先端技術の導入によるスマートコミュニティの構築へ ～

対象地域

豪雨災害において、特に甚大な被害を受けた、球磨川流域市町村*と津奈木町を基本とする。

(※)八代市、人吉市、芦北町、錦町、あさぎり町、多良木町、湯前町、水上村、相良村、五木村、山江村、球磨村

対象期間

復旧・復興に向けては、短期的に実施する取組みから、中長期的な視点で取組みを進めるものもあり、プランの期間は定めず、取組み毎に策定するロードマップに沿って、進捗状況を管理していく。

流域全体の総合力による“緑の流域治水” ～生命・財産を守る安全・安心の最大化と環境への影響の最小化のベストミックス～

新たな治水の方向性を踏まえた、抜本的な対策

- 「緑の流域治水」の1つとして、住民の「命」と地域の宝の「清流」をともに守る「新たな流水型のダム」の推進

速やかな再度災害防止のための緊急治水対策

- ・ 河道掘削、堤防整備、輪中堤・宅地かさ上げ、遊水地、放水路などの河川区域での対策の計画的実施
- ・ 堆積した土砂・流木の早期撤去
- ・ 球磨川支川や佐敷川等の災害復旧や改良復旧
- ・ 山地災害の早期復旧と砂防・治山施設の整備
- ・ 市房ダムの事前放流などのフル活用に向けた農業者等との連携による再開
- ・ 地域と連携した水田貯留機能のフル活用による「田んぼダム」の推進
- ・ ため池の活用、下水道等の排水施設、雨水貯留・浸透施設の整備
- ・ 奥山への広葉樹の導入など多様で健全な災害に強い森づくり など

※上記、「緑の流域治水」の取組みは、「球磨川水系流域治水プロジェクト」として、国及び流域市町村等と連携して推進。

“生命・財産を守る” 地域防災力の強化

○ 災害時の命綱となる伝達機能の強靱化

- ・ 戸別受信機の設置、警報サイレン・警告灯の増設等、あらゆる手段による避難の発信力強化
- ・ 通信回線の多重化による災害に強い情報通信網の構築
- ・ 河川監視カメラや危機管理型水位計の増設
- ・ ライブカメラやSNS等を活用したスマート防災の実現 など

○ 確実な避難による「逃げ遅れゼロ」

- ・ 想定し得る最大規模の洪水(L2)に対応したハザードマップ作成と流域住民参加型訓練の実施
- ・ 全ての流域市町村における実効性のあるタイムラインの策定
- ・ 命を守る「マイタイムライン」の普及と率先避難者(ファーストペンギン)の育成
- ・ 地区防災計画の作成や地域のリアルハザードマップ化(街頭への浸水深や避難所などの標識設置)
- ・ 広域避難や予防的避難の実施、安全で身近な避難場所・避難路やヘリポート等の確保
- ・ 地域の防災情報やダムなどの治水に関する正確な知識の共有 など

○ 災害弱者への支援の徹底・災害時の財産被害への備え

- ・ 高齢者や障がい者など配慮が必要な全ての世帯での要支援者個別避難計画の作成・検証
- ・ 要配慮者利用施設での早期の避難確保計画の100%作成及び訓練実施
- ・ ローカル5Gなどの通信技術を活用した避難支援システムの構築
- ・ 浸水想定エリアの住民への家屋や農作物等に対する保険等への加入促進 など

I すまい・コミュニティの創造

～安全・安心な住まいの確保と子どもも高齢者も暮らしやすいまちづくり～

- ・ かさ上げ等による宅地再生と高台等の安全な場所への移転促進 ・ 景観に配慮した中層等災害公営住宅の整備
- ・ 垂直避難エレベータの整備など、高齢者施設等における防災・減災対策の推進
- ・ 応急仮設住宅等の提供による住まいの確保 ・ 災害廃棄物の早期適正処理
- ・ リバースモーゲージ利子助成等を活用した県独自の住まいの再建支援
- ・ 「地域支え合いセンター」による被災者の生活再建に向けた総合的な支援
- ・ 介護予防等を図るリハビリテーション活動の支援
- ・ みんなの家を活用した地域コミュニティの確保 ・ 住民の意向に沿ったコミュニティ再生の支援
- ・ こころのケアセンターによる巡回・相談などを通じた被災者のこころのケア
- ・ 球磨村や八代市坂本町等の医療・福祉・教育・金融・行政などの生活サービス基盤の早期再建

II なりわい(生業)・産業の再生と創出

～一日も早い事業再開と地域の資源を生かした新たな“仕事の創出”～

- ・ なりわい再建支援補助金等による事業再建 ・ 雇用の維持・確保及び離職者等の就労支援
- ・ 被災企業の事業継続支援と新たな投資の誘発 ・ 八代港の物流拠点強化と新規コンテナ航路の開設
- ・ 地域の活性化や課題解決を図るコミュニティビジネス等の支援
- ・ 被災した農業者への営農再開等の支援 ・ 農地・農業用施設や林業・治山施設等の早期復旧
- ・ 仮設商店街の開設支援や商店街等の機能回復支援 ・ 海域・海岸に漂流・漂着した流木等の処理

III 災害に強い社会インフラ整備と安心して学べる拠点づくり

～いかなる災害が起きても、生命・財産・教育環境を守り抜くインフラの強靱化～

- ・ 国道219号をはじめとする県南地域道路の全面通行止めの解消
- ・ JR肥薩線、くま川鉄道、肥薩おれんじ鉄道の早期復旧
- ・ 道路・橋梁・電気・通信・水道などライフラインの早期復旧
- ・ 被災した警察施設・公民館等の早期復旧
- ・ 消防団詰所等の再建、災害車両・装備等の充実
- ・ 代替バスの運行等による通学手段の確保、学校の再開・学習機会の確保
- ・ スクールカウンセラー、スクールソーシャルワーカー等による被災した児童生徒等への心のケア
- ・ 被災した児童生徒等に対する支援、放課後児童クラブ利用者の支援

IV 地域の魅力の向上と誇りの回復

～球磨川の宝を次代につなぎ、地域の恵みと誇りを生かす～

- ・ 歴史五百年の人吉温泉の復活 ・ 球磨川くだり・ラフティングの再開
- ・ 大鍾乳洞球泉洞、道の駅「さかもと」の再開
- ・ 国宝青井阿蘇神社、相良三十三観音など被災した文化財の復旧
- ・ 被災した地域・集落における地域コミュニティの場として長年利用されている施設等の再建
- ・ 被災したエリアへの観光需要喚起策の実施 ・ 若者の地元定着、ふるさと回帰の促進

復旧・復興に向けて、直ちに実施する喫緊の取組み(令和2年度補正予算等で迅速に対応)

4 持続可能な地域の実現に向けた将来ビジョン(目指すべき取組みの方向性)

I すまい・コミュニティの創造

～ 安全・安心な住まいの確保と子どもも高齢者も暮らしやすいまちづくり ～

- 誰もが暮らしやすい・魅力あふれるまちづくりと新たなコミュニティの形成
 - ・ 医療・福祉・教育・行政機能などを集約した地域拠点整備
 - ・ 生涯現役社会の実現に向けた健康づくりや生きがい就労の推進
 - ・ 医療、歯科、介護・リハビリ等、持続可能な医療及び地域包括ケアシステムの構築
 - ・ 地域拠点と各集落間の巡回バス・デマンドタクシーの運行やドローン等を活用した買い物支援
 - ・ 人吉市街地をはじめとした道路改良(国道445号等)と一体的な街並み空間の再構築

II なりわい(生業)・産業の再生と創出

～ 一日も早い事業再開と地域の資源を生かした新たな“仕事の創出” ～

- ダイナミックなインセンティブによる企業支援と産業・雇用の創造
 - ・ 遊休施設や空き家を有効活用した、サテライトオフィスの設置やベンチャー企業の誘致
 - ・ ワークेशन・リモートワーク等、新たな仕事の創出や移住定住の促進
 - ・ 立地促進補助金などによる製造業等の誘致や新たな投資の誘発
 - ・ 県南フードバレー構想の推進による食品関連産業の集積
 - ・ 焼酎など醸造食品産業の復活を支える研究開発
- 球磨焼酎の“トップ・オブ・ザ・ワールド戦略”
 - ・ 「焼酎」を生かした研究開発・人材育成の拠点づくり
 - ・ 文化・伝統を体感できる施設等による誘客促進
 - ・ 世界レベルのコンペティションで最高位受賞の実現
- 最先端技術(AI、ICT等)を駆使した新たな“つながり”による、“スマート・ビレッジ”の実現
 - ・ ICTによる子どもや高齢者の見守り等の支援
 - ・ 集落や世帯をオンラインでつなぎ、災害時の避難支援や防災・生活情報を共有
 - ・ 地域にしながら専門の医師の診療が受けられるオンライン診療
 - ・ 服薬指導や薬の配送サービスなどによるオンライン調剤
 - ・ 介護ロボットや子育てAI、ICT機器の優先導入
- 再生可能エネルギーの導入推進によるゼロカーボン先進地の創出
 - ・ 木質バイオマス発電や小水力発電、風力発電の導入推進
 - ・ ZEHや太陽光発電初期投資ゼロモデル住宅など個人住宅への再生可能エネルギーの導入推進
 - ・ 温泉の排湯活用と組み合わせた焼酎発電など新たな再生可能エネルギーの研究
- “緑の雇用”の創出に向けた森林資源のフル活用
 - ・ 森林管理の適正化による木材の増産や早生樹の導入による林業の生産サイクルの短縮、「スマート林業」の推進
 - ・ 確実な手入れにつながる林道路網の整備
 - ・ 製材工場等の新設・拡充と住まいや街並み再建への地域材活用
 - ・ 八代港を活用した木材輸出の拡大
 - ・ 新たな森林サービス産業の展開
- 農地の大区画化による生産性の向上など稼げる農業の実現
 - ・ 崩落土等の活用による大区画化の実現と「スマート農業」の推進
 - ・ 新規作物導入や産地拡大による新たな担い手の確保・育成
 - ・ くまもとグリーン農業推進
 - ・ 地域農産物等の販路拡大
- 球磨川と干潟再生のシンボル「アユ」・「アサリ」による地域活力の再生
 - ・ アユ種苗の放流体制の再構築
 - ・ 干潟の生態系保全に向けたアサリ資源の回復
 - ・ 干潟漁場の覆砂による底質環境の改善

III 災害に強い社会インフラ整備と安心して学べる拠点づくり

～ いかなる災害が起きても、生命・財産・教育環境を守り抜くインフラの強靱化 ～

- 日本一災害に強い、命の道・通学の道としての「国道219号」の強靱化
 - ・ 国道219号と対岸道路のかさ上げ
 - ・ 「縮災」という考え方を踏まえた、強靱で信頼性のある道路の整備
 - ・ 自然と歴史に調和した橋梁の再生
- 二度と「陸の孤島化」しない、道路・通信網のリダンダンシー確保
 - ・ 県道人吉水俣線、県道宮原五木線、県道中津道八代線等の改良
 - ・ 集落に複数の道路や橋梁をつなぎ、すべての集落のダブルネットワークを整備
 - ・ 多重化による災害に強い情報通信網の構築
- 災害に強い地域拠点・避難所としての「防災公民館」や「防災道の駅」の整備
 - ・ 公民館や集会所へ太陽光発電と蓄電池設備の導入推進
 - ・ 球磨川流域の道の駅を、災害時の救援・復旧活動拠点として無停電施設の整備、耐震化、通信基盤の強化を実施
- 全国から若者が集う地方創生の核となる魅力ある学校づくり
 - ・ 東大等国内外の大学や高校とつながる授業の展開、企業等と連携した最先端のICT人材の育成、ローカル5G等の最先端技術の活用、e-スポーツなどによる「ICT教育日本一の実現」
 - ・ 地域資源とコラボした学科・コースの創設(水・緑等の“グリーンニューディール”関連、防災、焼酎・発酵、伝統建築など)
 - ・ ホテル、旅館や空き家等を活用した居住空間の整備など、受入環境の整備
 - ・ 「Kumaラボ」への参画、ゼロカーボンに資するエコ・スクールの取組み

IV 地域の魅力の向上と誇りの回復

～ 球磨川の宝を次代につなぎ、地域の恵みと誇りを生かす ～

- 復興のシンボルとしての清流川辺川・球磨川の継承
 - ・ 沢遊び・水辺遊びができる川づくり
 - ・ 球磨川と調和する景観と歴史的街並みの整備
 - ・ 浄化槽整備特区(仮称)の創設による単独処理浄化槽等の解消
- くまモンやクラウドファンディング等を活用した球磨川ファンクラブの設立
 - ・ くまモンと人吉球磨(くま)のコラボによる新たな魅力づくり
 - ・ 球磨川流域の清掃活動、植樹等の実施や情報発信
- 新型コロナ収束後の新たなインバウンド戦略の実行
 - ・ クルーズ船とくまモンポート八代を生かした県南観光の拠点化
 - ・ 薩摩街道の歴史をしのばせる佐敷の街並みとうたせ船の次代への継承
 - ・ 鹿児島・宮崎と連携し、焼酎等をフックとした誘客促進
- 観光資源の磨き上げや交通アクセスの多様化による人吉球磨の観光拠点化
 - ・ 日本遺産ツアーの展開や人吉球磨ゆかりのアニメツーリズムによる観光戦略の展開
 - ・ 九州周遊クルーズトレインの運行
 - ・ 自然体験と防災等を組み合わせた教育旅行の誘致
 - ・ 鉄道、リムジンバス、ヘリ等による阿蘇くまもと空港やJR熊本駅などのアクセス強化
 - ・ コンパクトな街並みと二次交通・観光体験をITで組み合わせるスマートツーリズムの推進
- 四季折々の自然を体感できる、ドライブ・サイクリング・ランニングロードの整備
 - ・ 桜・紅葉ロードの整備や、ナショナルサイクリングロードの整備によるツール・ド・九州・山口の誘致
 - ・ 水上スカイヴィレッジの高地トレーニングの聖地化と球磨川ウルトラマラソンの開催
 - ・ 歴史・文化・自然を体感できる自然歩道ルートの整備や新たな観光資源(球磨川ライトアップやロープウェイ等)の発掘
 - ・ 球磨川を生かした新たなアクティビティの導入や、温泉と食を組み合わせたウェルネスツーリズムの推進
- 若者が残り、集まる知的拠点としての“球磨川流域大学(仮称)”の構想
 - ・ 全国の新たな治水モデルとなる“緑の流域治水”をテーマとした、最先端の治水研究の推進
 - ・ 熊本県立大学をはじめとする国内外の大学や企業・研究機関等と連携した、“球磨川”“温泉”“焼酎”“マンガ”など、地域の課題や可能性にフォーカスしたラボの集合体「kumaラボ」の設置による知の拠点化
 - ・ 知事の人脈を生かした世界中の大学や有識者との双方向ディスカッション、バーチャルフィールドワーク

5 復旧・復興プランの実現に向けて

(1) 被災市町村への支援及び市町村相互の連携促進

- ・ 台帳作成による、集落毎にライフラインや道路の復旧状況等の確認
- ・ 市町村への継続的な人的・財政支援及び復興計画の策定支援
- ・ 市町村・県が連携し、定住自立圏等の仕組みを活用して、「チーム球磨川プロジェクト」を発足し、被災地域の復興を強力に支援

(2) プラン実現に向けた実効性の確保

- ・ 「球磨川流域版スーパーシティ構想(国家戦略特区)」の検討・実現による、復旧・復興プランの取組みのダイナミックな展開
- ・ DX(デジタルトランスフォーメーション)の推進による、あらゆる取組みの加速化
- ・ 被災者の負担と地方の財政負担の最小化に向けた、国への積極的な働きかけ
- ・ 「球磨川流域復興基金」の設置による、被災地域のきめ細かなニーズへの対応
- ・ 市房ダムの電気事業等からの収益を地域へ還元
- ・ ふるさとくまもと応援寄附金の積極的な募集

(3) 復旧・復興の進捗状況を踏まえたプランの見直しとアーカイブ化

- ・ 復旧・復興の進捗状況やその時々地域の実情を踏まえ、適宜、プランの取組みの見直しを行い、被災者のニーズを的確に捉えた取組みを推進
- ・ 市町村や大学等と連携して“新たな治水対策”“復興モデル”の発信と、後世への伝承(アーカイブ化等)

◆ 五木村の復興について

- ・ 「五木村復興推進条例」に基づき、五木村の復興を県政の重要課題として、これまで以上に強力に推進。
- ・ 貯留型ダムから流水型ダムへの変更に伴う新たな活性化のための計画を策定。
- ・ その実効性を確保するため、「熊本県五木村復興基金」を10億円上乗せし、県・五木村が連携し、清流川辺川を守りながら、将来も安心して五木村に住み続けることができる村づくりを目指す。
- ・ 同様に、相良村の地域活性化に向けた取組みを支援。

中長期的な視点で取組みを推進

愛する地域で誰もが安全・安心に住み続けられ、 若者が“残り・集う”持続可能な地域の実現

八代港



“**緑の雇用**”の創出に向けた
森林資源のフル活用



再生可能エネルギーの導入推進による
ゼロカーボン先進地の創出

ダイナミックなインセンティブによる
企業支援と**産業・雇用の創出**
誘致IT企業との連携

**なりわい(生業)・
産業の再生と創出**

球磨焼酎の“**トップ・オブ・ザ・ワールド戦略**”

ツールド九州
の誘致も

新型コロナ収束後の新たな
インバウンド戦略の実行

四季折々の**自然を体感**できる、
ドライブ・サイクリング・ランニングロードの整備

芦北町・うたせ船

八代市坂本町

球磨川と干潟再生のシンボル
「**アユ**」・「**アサリ**」による
地域活力の再生

津奈木町・舞鶴城公園

**すまい・コミュニティ
の創造**

最先端技術 (AI, ICT等) を駆使した
新たな“**つながり**”による、“**スマート・ビレッジ**”の実現

ICTで生活
防災情報が
迅速にわかる

既設ダム

オンライン診療・
調剤もできる

農地の大区画化等による生産性の向上など
稼げる農業の実現

誰もが暮らしやすい・魅力あふれる
まちづくりと新たな**コミュニティ**の形成

持続可能な医療、
地域包括ケアシステム
で安心

二度と「陸の孤島化」しない、
道路・通信網の**リダンダンシー確保**

緑の流域治水

生命・財産を守る安全・安心の最大化と
環境への影響の最小化のベストミックス

**災害に強い
社会インフラ整備と
安心して学べる拠点づくり**

復興のシンボルとしての
清流川辺川・球磨川の継承

日本一災害に強い、**命の道・通学の道**
としての「**国道219号**」の**強靱化**

国道219号の復旧

災害に強い地域拠点・避難所としての
「**防災公民館**」や「**防災道の駅**」の整備

くまモンやクラウドファンディングを活用した
球磨川ファンクラブの設立

全国から若者が集う地方創生の核となる
魅力ある学校づくり

観光資源の磨き上げや交通アクセスの
多様化による人吉球磨の**観光拠点化**

若者が残り、集まる知的拠点としての
“**球磨川流域大学** (仮称)” の構想

ICT教育日本一

kumaラボで
地域の課題や
可能性を研究

**地域の魅力の
向上と誇りの回復**

～**球磨川流域グリーンニューディール**～